

令和5年度 脱炭素先行地域づくり事業の概要

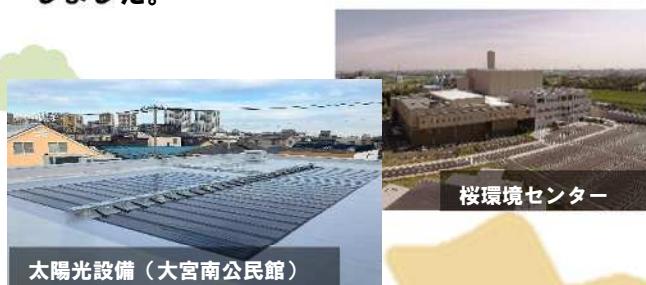
脱炭素先行地域とは

脱炭素先行地域とは、2050年カーボンニュートラルに向けて、民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴うCO₂排出の実質ゼロを実現し、そのほかの温室効果ガス排出削減についても、我が国全体の2030年度目標と整合する削減を地域特性に応じて実現する地域です。

本市では、令和4年に脱炭素先行地域に選定されて以来、公民学が連携して、再生可能エネルギーの供給を増やす取組や、省エネの取組、電力需供を最適化する取組等を進めています。

公共施設

桜環境センターでごみ発電した電力を6公共施設（本庁舎、水道庁舎等）へ供給し始めました。また、公民館3箇所（大宮南、上木崎、西浦和公民館）に太陽光発電設備及び蓄電池設備を導入しました。



芝浦工業大学

芝浦工業大学では、大宮キャンパス全体のCO₂削減目標を設定し、それを達成するために太陽光発電設備の導入や照明器具のLED化、空調設備の高効率化などの取り組みを実施しました。さらに、現在計画中の新棟は、ZEB Readyという認証基準を目指しています。



埼玉大学

埼玉大学では、脱炭素に関する講義や脱炭素推進部門シンポジウムなど、脱炭素の意識改革を促すソフト面での取組を推進しています。また、市内配水場（尾間木、深作配水場）から発電された小水力由来の電力を埼玉大学で受け入れることが決定しました。



地域共創エリア（美園地区）

カインズ浦和美園店では、太陽光発電設備や蓄電池設備の設置による再エネ導入を行いました。また、イオンモール浦和美園では、太陽光発電による電力を購入しており、今後に向けて再エネ設備の導入も検討しています。



脱炭素先行地域の詳細は裏面へ

さいたま市の目指す脱炭素先行地域

さいたま市のゴール

- ① 地域循環共生型の都市型エネルギーモデル構築
- ② 「公・民・学」それぞれが主体となって取り組むグリーン成長モデルの実現

①のポイント

- 再エネポテンシャルの低い自治体でも取組可能な汎用性の高いサステナブルな都市型のエネルギーモデル

①の柱となる取組



地域エネルギー活用

- ごみ発電や卒FIT電源を始めとする地域資源を最大限活用した再エネの地産地消



自治体間の共生圏構築

- 都市間連携による再エネの導入拡大



災害に強いまちづくり

- EMSや蓄電池等による需給調整と系統最適利用を通じたレジリエンス向上・エネルギー安定性確保

②のポイント

- 公・民・学それぞれが主体となって先進的かつサステナブルな取組を共創するグリーン成長モデル

②の柱となる取組



【公】先進取組への積極的なコミットメント

- 公民学共創によるイノベーションとGX・DX促進
- グリーンリカバリーの観点からの脱炭素化推進



【民】スマートでサステナブルなライフスタイル転換

- 民間主体の脱炭素型の地域拠点創出、スマートシティの推進、再エネの積極的な開発・導入



【学】大学キャンパスの脱炭素化推進

- 市内大学と連携した脱炭素化の取組とイノベーション・デジタル人財等の育成促進

その他の取組

シェア型モビリティ

市内含む関東エリアでカーシェアに利用される小型EVを10台追加（累計47台）導入しました。EV充電が可能なステーションの整備も進め、モビリティ関連の脱炭素も推進しています。



バイオガスプラントへ食品廃棄物の運搬

芝浦工業大学は、大宮キャンパス学生食堂にて発生するすべての食品廃棄物をニューエナジーふじみ野株式会社バイオガスプラント（バイオガス発電によって再エネを製造可能な施設）へ運搬しています。食品廃棄物を焼却処分する際に生じる温室効果ガスを削減し、地域の脱炭素化に貢献しています。



ニューエナジーふじみ野



大宮キャンパス学生食堂

脱炭素化対象施設一覧

事業者名等	対象	脱炭素化状況
さいたま市	公共施設590施設	令和12年度脱炭素化達成予定
埼玉大学	埼玉大学キャンパス	令和12年度脱炭素化達成予定
芝浦工業大学	芝浦工業大学大宮キャンパス	令和12年度脱炭素化達成予定
イオン	イオンモール浦和美園	令和5年度脱炭素化達成！
カインズ	カインズ浦和美園店	令和5年度脱炭素化達成！